

# 5年生向けコンテンツ提供

## 実習前後にテスト、成果判定

### 薬学ゼミナール

薬剤師国家試験予備校大手「医学アカデミー薬学ゼミナール」は、来春から大学薬学部5年生向けに教育コンテンツの提供を開始する。薬学教育で学んだ知識や考え方が臨床の場である5年次の長期実務実習に生かされ、その先の国家試験対策にスムーズにつながるための教育コンテンツを新たに作成した。来年1月末から2月に全国統一の実務実習前テス

ト、2022年2～4月に実務実習後テストを実施し、実務実習前後の成績比較や実務実習で身に付けた内容の成果判定が行えるようにする。臨床の場である実務実習で学ぶ内容を資料でサポートし、4年次までに学んだ基礎科目の知識を実務実習でも維持することで6年次の国試対策へと橋渡ししたい考え。導入初年度は30大学への提供を目指す。

いやすい教材を意識している。実務実習中に知識が薄れていく恐れのある基礎科目を補充し、国試でも出題頻度が高い実務実習で学ぶべき8疾患を中心とした症例・処方方をベースに実務実習の体験につなげる学修が可能だ。

さらに、薬ゼミ講師による書籍を使用した講義の動画コンテンツも提供する。4年次までの学修で得られた知識を引き出す問いかから現場の薬剤師による情報提供などが盛り込まれている。実際に実務実習で体験してほしい8疾患に関して、基本的な知識を身に付けられるだけでなく、実習中に体験できなかった領域もカバーできるようにしている。

### 基礎科目の知識維持へ

近年の薬剤師国試は難易度が高くなる傾向にあり、実務実習で学ぶ内容からの出題数が増加し、実務実習での経験が重要な位置づけとなっている。教育現場からは、学生が実務実習に集中できるようにさせたい一方で、実務実習中にこれまでの記憶が薄れることへの懸念と、実務実習で得られた成果の判定がしづらいという課題があった。薬ゼミは、こうした教

育現場からの意見を踏まえ、薬剤師国試対策をサポートしてきた実績から、大学薬学部・薬科大学向けに5年生向けの教育コンテンツを提供することにした。▽学生向けに実務実習で学ぶべきことを意識づけさせるガイダンス▽実務実習前テスト(基礎・臨床)▽5年生向け書籍▽実務実習後テスト(基礎・臨床)の四つのコンテンツで構成された教育パッケージとなっている。

来年2月後半から1期の実務実習が始まることから、1月末～2月には基礎科目(物理・化学・生物)と臨床科目(実務・8疾患)を範囲とした70問の「全国統一実務実習前テスト」を実施する。実務実習で学ぶべきポイントや国試での出題ポイントを解説した解答解説書もつけ、学生に実務実習や国試の意識づけをしてもらう。

冊になっており、キャラクター(大学の先生・実務実習指導薬剤師・ベテラン薬剤師・患者・学生)の会話形式で内容が進行する形式で、実務実習中でも書籍を使った自己学修がしやすいよう工夫した。

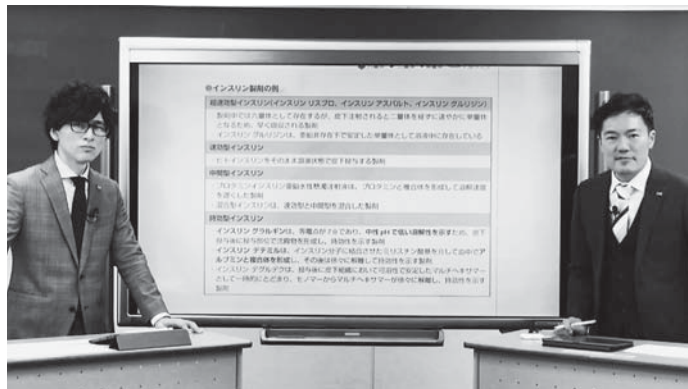
大学の教員や病院の薬剤部長、薬局薬剤師など経験豊富な各領域のスペシャリストが監修し、自己学修しやすく現場で使える。

冊になっており、キャラクター(大学の先生・実務実習指導薬剤師・ベテラン薬剤師・患者・学生)の会話形式で内容が進行する形式で、実務実習中でも書籍を使った自己学修がしやすいよう工夫した。

大学の教員や病院の薬剤部長、薬局薬剤師など経験豊富な各領域のスペシャリストが監修し、自己学修しやすく現場で使える。

### 学修の取りこぼしを把握

薬ゼミ講師による書籍を用いた講義画像



IV期の実務実習後となる22年の2～4月には、実務実習成果を判定するテスト、基礎学力の維持

を判定するテストとして「全国統一薬学実務実習後テスト」を実施。実務実習に参加する前と後で

実務実習の成果判定を行えるようになっていく。受験した学生には個人カルテで、実習前後の成績を比較し、成果確認や平均正答率が60%以上の問題を間違えた場合に付けられる「赤帯」により、基礎科目では弱点範囲の把握、臨床科目では実務実習で未体験の内容や実務実習で体験したにも関わらず理解できていない可能性のある部分など学修の取りこぼしを見つけ出すことができる。

薬ゼミは、5年生向け教育コンテンツの提供を開始することで、低学年次のリメディアル教育から共用試験、国試対策まで一貫したサポートを強化した。

今後は、実際に導入した大学から実務実習前後での試験問題を中心に課題を抽出しながら、問題や書籍の精度を高め、大学や薬学生のニーズに合うようコンテンツを充実させる方針。国家試験に必要な「科目を横断した知識」「考える力」「問題解決能力」に対応する力を養えるようになっていく。

実務実習中には、臨床現場に出た学生をフォローする5年生対象の書籍を作成した。物理・化学・生物の基礎科目を基